

タイに関するあれこれ

在タイ日本大使館 春日 慶輝

【はじめに】

現在、在タイ日本大使館に勤務しておりますが、直近は英国・ロンドンにて留学しておりました。2018年の7月に渡英しましたが、英国の夏は短く、筆者は日本の都道府県の中でも日照時間の少ない北陸出身ですが、冬は15時で日が落ちるといって生活し、やや気が滅入る感じがしました。

日本と比べて英国のサービスの質が低い（より正確に言えばコストに見合うサービスの質が低い）ことに辟易し、日本はいい国だったなあと思っていたところでしたが、日本への帰国時には下記の出来事から、もう戻ってくることはなかろう、と思いました。

留学先のプログラムを終え、帰任のために英国のヒースロー空港に出発の4時間前に到着し、免税手続きカウンターにて1時間並んだ挙げ句に、免税担当者が処理に相当の時間を要したため、フライトの時間の制約から免税手続きを諦め、相当の余裕を持って空港に到着したはずがチェックインカウンターは閉鎖され、交渉の末になんとか、預け入れができ、出発ロビーまでの全力疾走を経て、なんとか出発に間に合いました。NH212の座席に座ったときに、ああ、二度と戻ってくることはないだろうなあと思いました。

そして、程なくしてタイへ赴任し、食事が非常に手頃な値段で食べられる、少なくともロンドンと比べて物価が安い、常夏という点を筆頭に、生活のしやすさはロンドンと比べて圧倒的改善をみました。

しかし、タイの暑さに慣れてしまうと、ふと英国の寒さを懐かしいと思うことがあります。当初タイでは年中夏物が売られていると思いきや、日本が秋の季節になると長袖が、冬になるとダウンが売られています。そもそもタイではユニクロは富裕層向けのブランドという位置づけであり、海外旅行に行くタイ人向けと思われる（真偽のほどは承知しておりませんが、

都市伝説として最低気温が20℃を下回ると凍死者が出るとか）。そのくらいの“冬要素”しか感じられないのがタイです。

昨年の6月末にタイのスワンナプーム空港に降り立ち、約1年が近付こうとしているところです。この間、経験したこと、見聞きしたことに関してご提供させていただければと思います。

【タイの概要】

まず、すでによくご存知の方も多いかと思いますが、タイとはどんな国か簡単にお示しします。

人口6,641万人（2018年 出典：タイ投資委員会作成資料）、面積約51万平方kmの立憲君主国（2019年に民政に移管するも依然として軍の影響が大きい）です。日本の国土面積の約1.4倍がありますが、国土の森林率が2/3の日本と比べ、平坦な国であることから、平地面積は日本の約10倍と言われています。そのため、2011年の洪水時（2011年7月31日～12月）には被害が広範に及びました。

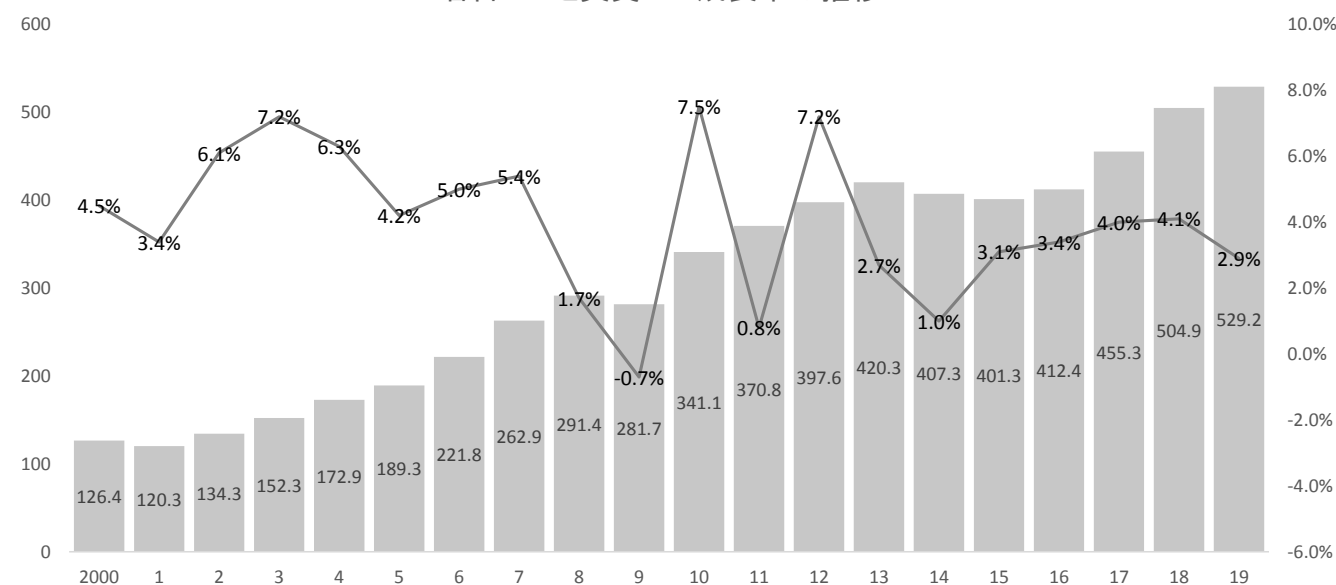
合計特殊出生率は1.53（2017年 出典：世界銀行）、高齢化率10.97%（2018年 出典：タイ投資委員会作成資料）、そして人口のピークは2028年前後に現れ、生産年齢人口（15～64歳）の比率はすでにピークアウトしていることから、日本よりも急速に高齢化が進んでいくことが予想されています。この点については、対応できる社会・経済的基盤がない現状で高齢化・高齢社会へ突入することに対する懸念の声、課題先進国として日本から学びたい点が多いとタイ政府関係者・有識者等から聞きます。

【経済事情】

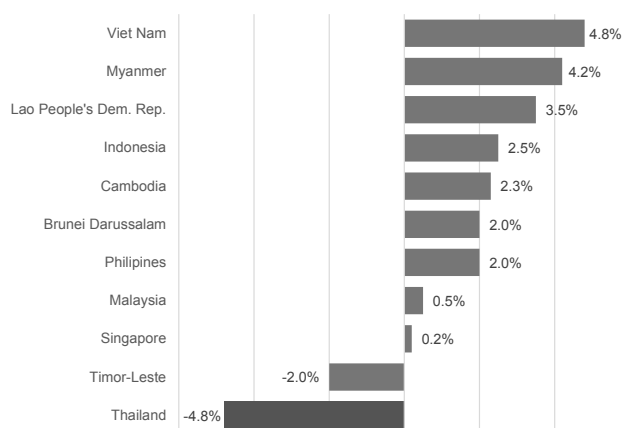
2000年以降の経済状況としては、2008年の世界金

(単位: 10億米ドル)

名目GDPと実質GDP成長率の推移



名目GDP及び実質GDP成長率の推移 (出展: World Economic Outlook、世銀等より筆者作成)

GDP Growth Rate, 2020 forecast
(% per year)東南アジア諸国における2020年のGDP成長率の見通し
(出典: ADB)

融危機、2011年のタイ洪水や2014年のクーデターなどにより低成長ないしマイナス成長となりましたが、以降内需が牽引役となり、2019年までは3%前後の安定成長を実現しています。2019年はパーツ高の影響や米中貿易摩擦などの影響で2.9%のGDP成長率となりました。2020年の見通しについては、COVID-19の感染拡大の影響から、GDPの寄与度の10%超を占める観光や輸出の落ち込みに伴い、年率-5.3% (2020年3月時点 出典: タイ中央銀行) や-5.0%~ -3.0% (2020年3月時点 出典: 世銀) という1997年のアジア通貨危機時以来の落ち込みが予想され、中でもタイは東南アジア諸国の中では最大の落ち込みが予想さ

れています。

在留邦人数は約7万5,600人であり、約5.5万人がバンコクに居住しています (2018年、外務省「海外在留邦人人数調査統計」)。

タイ進出企業数はJETROの調査 (2017年) によると5,444社でしたが、現在は6,000社がタイで活動していると言われております。

そのため、日本食レストランも非常に多く、日本食文化が浸透し、健康志向の高まりや2013年の日本政府によるタイ人の短期取得ビザの免除の効果も相まって、タイでは日本食レストランが3,600店舗あると言われております。新規出店の日本食レストランは近年はバンコクで増え、バンコク以外の県では大幅に増えています。

【財政事情】

財政事情については、2019財政年度終了時点において、ストックで見ると債務残高対GDP比は43.44% (出典: タイ財務省公債管理局)、2019年度予算の公債依存度は8.7%と、日本の同158%、32.1%と比べると非常に財政余力があるといえます。IMF・世銀ともにタイの財務状況を評価しております。また、パーツ建債についてはBaa (Moody's)、BBB+ (S&P、Fitch) の格付けを受けています。

タイ財務省の「Fiscal Sustainable Framework」により、債務残高対GDP比率が60%以下とすること、予算の公債依存度を15%以下とすること、資本的支出を予算の25%以下とすることを規定していますが、その目標の水準を達成しています。

ただし、IMF等から懸念点として、今後高齢化社会を迎えたときの財政・社会保障の予期せぬ膨張の可能性が指摘されています。上場企業においては、退職一時金と企業年金の支給を義務付けるなど、社会保障制度の整備が進められているところですが、公的な介護保険制度は未整備であり、一般的には家族やコミュニティが要介護老人を自宅内で介護することになります。

介護に関しては日本の制度やノウハウなどで進んでいる点が多く、好機と考え、タイに進出し、介護分野で事業展開をすすめる日系企業も見られます。

【日タイの往来】

日本からタイへの旅行者は約181万人（2019年 出典：タイ観光スポーツ省）で対前年9.1%であり、国別では8番目に位置します。行先として人気があるのはバンコク、プーケット、アユタヤなどです。

逆に、タイから日本への旅行者は約132万人（2019年 出典：JNTO）と前年比16.5%と過去最高となっています。訪日タイ人観光客の特徴は、リピーターが多いこと、個人旅行手配率が高い点です。まずタイ人観光客のうち7割以上がすでに一度日本に旅行したことがある方です。一度目は東京・大阪・京都・北海道・福岡などの大都市へ、二度目以降は地方都市に足を運ぶ観光客が多い傾向が見られます。後者の旅行は宝探しのように訪れたい場所・食べたい店をSNSなどを通じて発掘し、自らSNSで発信する、というのが典型的なタイ人旅行客の行動パターンのもので、旅行の個人手配率が約8割というのも頷けます。

【渋滞事情】

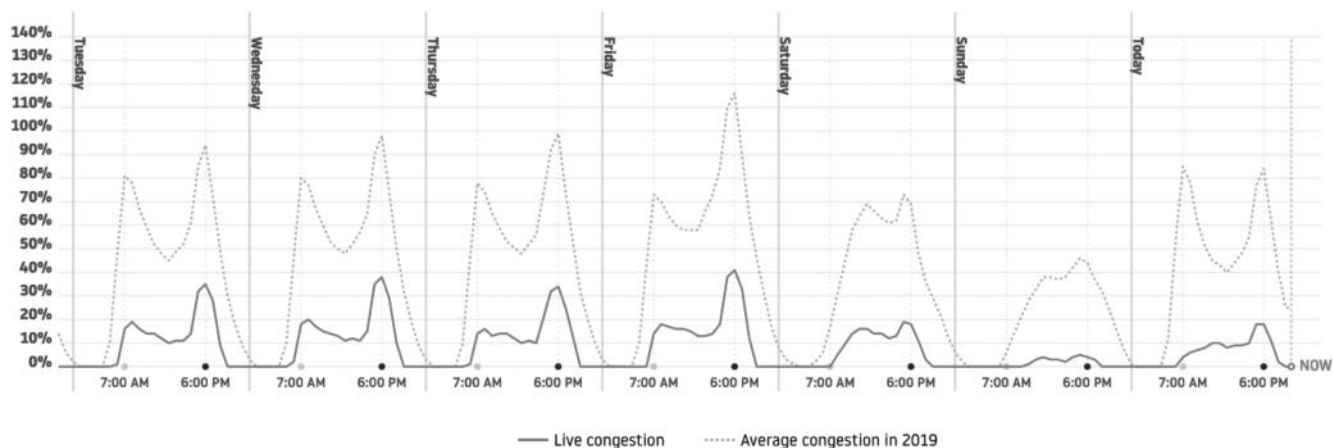
タイを語る上で、渋滞事情は欠かせません。特に、バンコクの渋滞事情は世界の都市中11番目の混雑具合

（2019年 出典：TomTom）であり、金曜の帰宅ラッシュ時は普段30分で到着する大使館-空港間が3時間かかるときもあります。（バンコク在住の人はかかる渋滞事情をよく理解しているため、仮にスケジュールに遅れたとしても「あー渋滞だったのね」と理解されるケースが多いようです。どうしても遅刻できない場合は相当の余裕を持ち、予定より30分ほど早く到着するつもりで向かい、実際にその通りについてしまったらコーヒースタイルで時間をつぶす、というのがタイスタイルです。）

このような交通渋滞の原因としては、渋滞中も乗用車の狭い隙間を縦横無尽に抜かしていくバイクです。これは乗用車にも当てはまることですが、運転免許の取得が非常に容易であることから交通マナーが徹底されておらず（例えば最も左のレーンから右折する、禁止の場所でUターンするなど）、円滑な車の往来が阻害されるケースが多いです。更に、信号切替が警察官のマニュアル操作で行われています。管轄の境界線上ではいずれの信号も長く通したいため、妥協策として一方の信号が長時間赤、他方が長時間青となるケースが多く渋滞の原因となっております。非常に細かく張り巡らされた交通渋滞の問題もさることながら、交通事故死亡率の高さも問題であり、WHOの統計（出典：Global status report on road safety 2018）によると年間推計死者数は10万人あたり32.7人（うち自動二輪車での死者数は24.3人）と、世界でも9番目、アジアでは最悪です。

	Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
12:00 AM	6%	1%	2%	3%	3%	3%	8%
	2%	0%	0%	0%	0%	0%	3%
02:00 AM	0%	0%	0%	0%	0%	0%	1%
	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
04:00 AM	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
	0%	12%	11%	10%	10%	10%	2%
06:00 AM	0%	53%	48%	46%	46%	43%	6%
	6%	85%	81%	80%	78%	73%	17%
08:00 AM	14%	78%	78%	77%	74%	70%	31%
	21%	61%	67%	67%	65%	64%	47%
10:00 AM	28%	51%	59%	60%	59%	60%	58%
	33%	45%	52%	53%	53%	58%	64%
12:00 PM	38%	43%	48%	50%	50%	58%	69%
	38%	40%	45%	48%	48%	58%	66%
02:00 PM	37%	44%	49%	52%	52%	66%	63%
	38%	48%	52%	57%	56%	73%	61%
04:00 PM	42%	55%	61%	65%	66%	84%	62%
	46%	77%	85%	90%	92%	110%	73%
06:00 PM	44%	84%	94%	98%	99%	116%	69%
	37%	62%	72%	74%	74%	90%	48%
08:00 PM	32%	40%	49%	50%	50%	64%	36%
	24%	25%	30%	32%	32%	46%	29%
10:00 PM	15%	14%	18%	19%	20%	31%	22%
	7%	6%	9%	9%	10%	17%	13%

バンコクにおける曜日別・時間帯別渋滞状況（2019年 出典：TomTom）



バンコクにおける渋滞状況（太線は2020年3/31~4/6、点線は2019年の平均 出典：TomTom）



渋滞時のバンコク
（※バイクが4輪車の間を縫って移動している様子がわかる）



バンコクでの青信号待ちのバイクの集団

他方で利便性もあり、Grabを代表とする配車アプリがあり、バンコクであれば5~10分、観光客・外国人ということで観光客料金でぼったくられることなく、正規料金で乗車することができます。また、飲食店と提携し、食事のデリバリーもアプリで簡単に行えます。広くタイ人の間でも普及していたことが幸いし、3月22日より開始されたCOVID-19の感染拡大に伴う措置として飲食店がテイクアウト・デリバリーに限られたにも関わらず、普段どおりの食事ができるありがたさを感じます。また、タイ政府からのテレワークの呼びかけ、および4月3日からの夜間外出禁止令により、渋滞が相当緩和されている状況です。

渋滞緩和の意味もありますが、モノレールや地下鉄がバンコクを放射線状に張り巡らされ、現在も拡張が進んでいます。計画時点では料金設定の関係上、需要がそれほどないのでは、とホームの幅員や車両数が少なめであるため、蓋を開けてみると非常に需要があ

り、朝夕の通勤ラッシュは東京のそれと大差ありません。

【食事】

タイの食事情がおそらく最もご関心があると思われる点ではないかと思えます。

まず、個人的なおすすめは、虎ノ門界隈で楽しめるタイ料理をご紹介しますと、スクンビット・ソイ39というタイ料理店をご存知の方も多いかと思います。当時名前について深く考えたことはありませんでしたが、タイにて日本人がよく住むエリアがプロンボン、そして、その通りの一つがスクンビット・ソイ39でして、私もそこに住むこととなり、そういえばなんて店だったかと思い出し、まさかの一致を見ました。ちなみに、日本に7年の留学経験のあるタイ人にインタビューしてみたところ、タイ人にとっては麺の種類が



(パッタイ)



(ガパオ)



(トムヤムクン)

重要とのことで、バミー（細い中華麺）、センヤイ（幅広の生麺）、センミー（幅の細い乾麺）などのオプションがあることが重要とのことです。

真っ先に思い浮かべるタイ料理といえば、ガパオ・トムヤムクン・パッタイのいずれかではないでしょうか。私はカオマンガイ（チキンライス）が特に好きなのですが、タイ人に言わせると伝統的なタイ料理ではないそうです。これらの“タイ料理”は屋台で食べると50～100バーツ（約165～330円）程度の料金であり、日本の感覚だと非常に安いのですが、やや量が少ない感じがします。これは、タイでは非常に多くの屋

台があり、食事のテイクアウトが気軽にできることが大きいのではないのでしょうか。1日に平均4～5回食事をするタイ人が多いそうです。

食事の満足度が非常に高いと感じていますが、その要因としては、値段もさることながら、タイ料理に限らず、和食、中華、イタリアン、フレンチ等何をとっても美味しいことです。和食については、下手すれば日本の和食より美味しい店はたくさんありますし、何より驚愕するのは、オーナーは日本人であっても、実際の調理はタイ人のみで行っている店もあり、それでも非常に美味しいところが多いことです。それは和食に限らず、他の料理でも同様です。

【気候】

雨季（5～11月）、乾季（11～翌3月）、暑気（3月～5月）に分かれます。雨季は湿度が高めであり、ほぼ高確率で1日に1回雨が降ります。乾季には1ヶ月に1、2回程度降雨があるかないか程度の頻度でしか雨が振らず、渇水が生じる年もあります。執筆時点では暑気で、日中の最高気温が37度前後ですが日本の夏のような高い湿度ではないため過ごしづらくはありません。

【大気汚染】

PM2.5の空気中の濃度が高く、数キロ先の視界が霞みます。専用のアプリケーションで毎日数値の確認し、マスクをして通勤しています。数値が悪い日にマスクなしで出かけると喉の違和感が生じる場合があります。危険を感じましたのでタイでの外出時にマスクの着用は欠かせません。PM2.5のみならず別の粒子も飛んでいるようで、自宅に帰るころにはマスクが薄黒くなっているときもあります。

学校教育にも影響を来しており、数値が高いと予想される週は学校が臨時休校となる場合があります。近年はマスク着用する割合が高く、COVID-19の情報が始まった2月上旬あたりからは公共の場ではほとんどのタイ人がマスクをする状況です。

【医療水準】

私はタイで一度しか病院に行ったことがなく(*)、多くを知らないところではありますが、タイの医療水準は世界的に見ても高いとされています。まず医師の水準ですが、日本の医師国家試験とは異なり、心臓外科、整形外科、内科、脳外科など診療科ごとの免許であり、医師免許を取得している診療科以外の診療を行えないことから専門性が高いようです。医療ツーリズムとして中東系の旅行客にも人気があり、配偶者を多数引き連れ、悪いところを全員治して帰国するという光景を偶に目撃します。アラブ人専用病棟、(在留邦人が多いことから)日本人専用病棟なるものや、様々な言語に対応できる医療スタッフや通訳も充実しているため、私立病院の水準は日本の医療水準と比べて遜色ないと言われています。他方、公立の病院では予約ができず、非常に安価で2時間や3時間待つことはざらにあるそうですが、質は高いと聞きます。

(*) 妻の実験台としてフルーツ酸ピーリングなるものを試してこいと命じられ、シミ取りで著名な医師の下でシミの箇所を針を刺し、フルーツ酸を注入するという施術を受けた程度です。今日の主流であるレーザーによるシミ取り以前の主流が本施術と聞きます。なお、約1,400パーツ(1パーツ=約3.3円(執筆時点)、約5,000円)と日本と比べると破格であり、妻曰く効果もあったため、おすすめです。駐在経験のある方(特に女性)がタイ旅行に行く際の目的の一つが美容とも言われ、シミ取り・たるみ取り・ほくろ取りなどを予約してから旅行に行かれるようです。

【おわりに】

執筆中の4月下旬の段階でCOVID-19の感染拡大に関して先の見えない状況ですが、早期の終息をお祈りするとともに、終息後に安全に渡航ができるようになったのには、ぜひタイを訪れてみてください。

最後になりますが、本稿は筆者の個人的な見解であり、日本政府及び在タイ日本国大使館としての見解ではないことを付言させていただきます。



2019年11月 ASEANサミット直前のバンコク

連載

海外
ウォッチャー